



イエス団東日本大震災救援対策本部 活動報告書

発行所: 社会福祉法人・学校法人イエス団 東日本大震災救援対策本部

発行者: 対策本部長 平田 義

〒651-0076 神戸市中央区吾妻通 5-2-20 TEL: 078-221-9565 FAX: 078-221-9566

vol. 4

http://www.jesusband.jp e-mail: saigai-sien@jesusband.jp

2011/12/28

震災から9ヶ月が過ぎました。厳しい寒さの中、家族をなくされた方、仕事や財産を失った方、目に見えぬ放射能への不安にさらされている方、今もなお多くの方々が気持ちの休まる間のない時を過ごされています。私たちは今できることからを模索し支援活動を継続しております。しかし、現地の方々はこれからも気の遠くなるような復興の道のりを歩まなくてはなりません。特に原子力発電所による放射能汚染は、人々の健康と命の脅かし、豊かな自然環境を取り返しの付かないものにしてしまい、そして、そこに住む多くの人が生活を根こそぎ奪ってしまいました。このことは福島の人々だけの問題ではなく、多くの原発を抱える日本に住む、私たち一人一人の問題として考えて行かなくてはなりません。そして、被害を受けられた一人一人の思いを大切に、国の責任において迅速な対応がなされることを願います。

クリスマスを迎え新たな希望が見いだせる年が来るようにここからお祈りを捧げたいと思います。

～ 活動一覽 (12月22日現在) ～

活動(支援)場所	活動日(期間)	イエス団施設名	活動内容
岩手県、宮城県の一部の保育所	・ 4月7日～7月2日	・ 馬見勞務保育園	保育備品を収集し、被災された保育園・施設へ送付
①岩手県宮古市	・ 6月18日～22日	・ 賀川記念館	現地視察、障がい者施設支援のための情報収集
②岩手県大槌町	・ 8月4日～8日	・ 法人本部事務局	大槌町包括支援センター 支援活動
③岩手県陸前高田市	・ 6月28日～7月2日	・ ガーデンエルロイ	泥だし、瓦礫撤去等、日常生活への復旧作業
	・ 7月5日～9日	・ ガーデンエルロイ	泥だし、瓦礫撤去等、日常生活への復旧作業
④宮城県仙台市	・ 9月6日～8日	・ 聖浄保育園	泥だし、瓦礫撤去等、日常生活への復旧作業
	・ 9月7日～10日	・ 京都市南部障がい者地域生活支援セク「あいりん」	被災者支援コンサート
	・ 9月13日～21日	・ 愛隣デイサービスセンター	泥だし、瓦礫撤去等、日常生活への復旧作業
⑤宮城県石巻市	・ 4月4日～10日	・ 愛隣デイサービスセンター	障がい者生活支援、炊き出し、引っ越し手伝い
	・ 4月20日～27日	・ 愛隣デイサービスセンター	障がい者生活支援、炊き出し、引っ越し手伝い
	・ 5月10日～14日	・ ガーデンエルロイ	泥だし、瓦礫撤去等、日常生活への復旧作業
	・ 6月3日～4日	・ 愛隣デイサービスセンター	障がい者生活支援、炊き出し、引っ越し手伝い
	・ 6月18日～19日	・ 愛隣デイサービスセンター	障がい者生活支援、炊き出し、引っ越し手伝い
	・ 6月23日～30日	・ 愛隣デイサービスセンター	障がい者生活支援、炊き出し、引っ越し手伝い
⑥宮城県東松島市	・ 5月16日～20日	・ ガーデンエルロイ	泥だし、瓦礫撤去等、日常生活への復旧作業
⑧宮城県宮城郡	・ 11月14日～25日	・ 宇山光の子保育園	泥だし、瓦礫撤去等、日常生活への復旧作業
⑦福島県猪苗代町	・ 8月1日～6日	・ 京都市南部障がい者地域生活支援セク「あいりん」	障がい児・者相談支援
	・ 8月22日～27日	・ 京都市南部障がい者地域生活支援セク「あいりん」	障がい児・者相談支援
京都市伏見区	・ 6月19日	・ 愛隣館研修センター	向島ほっこりフェスタにて被災障がい者施設製品販売
京都市伏見区	・ 7月9日	・ 愛隣館研修センター	あいりんまつりにて被災障がい者施設製品販売
神戸市中央区	・ 5月15日	・ 賀川記念館	賀川記念館周辺地域の救援活動報告会
	・ 8月10日～	・ 賀川記念館	被災障がい者施設製品販売
六甲山YMCA	・ 6月17日～18日	・ イエス団法人研修会	ブラッシュアップ研修にて被災障がい者施設製品販売



～ 活 動 報 告 ～

●宮城県仙台市

東北教区被災者支援センターエマオでのボランティア活動報告【9月13日～21日】

被災地で必要だと感じたことは、生きる希望をもつことの難しさであった。けれど、つらい状況にあるなかでも寄り添って生きることが、糧になるということ学んだ。

わたしは、震災より半年経過した9月13日から21日まで仙台に行き、仙台市若林区七郷地区にて4日間・石巻市の被災地へ2日間のボランティア活動を行ってきました。

海に面した荒浜地区は、今や誰ひとり住んでいない。だが、そのすぐとなりの七郷という地区には津波の被害にあいながらも、住んでいる人々が数世帯いた。夏は海水浴で人が賑わうこの地域。以前は、農場の広がる自然の多い地域でもあった。仙台市内にある、教会から14キロの道のりを1時間くらいかけて現地に向かいました。荒浜の海に見学にも行ったが、津波があったことが信じられないとても穏やかな海であった。が、堤防から街を見渡せば、実際に流されてしまった街が広がっていた。実際にその場で見てしまうことは、テレビや新聞で見るよりも感じる感じが大きい。そこは波音よりも風の音のほうが強く聞こえた。七郷地区の側溝の多くは、まだ泥が溜まっている。大雨が降ると、冠水してしまうそうだ。泥をかき出す作業を行った。農地だった土地も津波の被害にあい、その土地を再度農地にするために、流されてきた松の木の枝や鉄棒を撤去した。撤去作業をするなかでも、横の畑では、既に耕された畑に緑が生い茂っていた。米はまだ作れないそうだが、ビニールハウスには、人参やデニッシュもたくさん実り、収穫作業はとても嬉しい気分で行うことができた。その反面、まだ手がつけられていなかった倉庫の撤去作業時には、引き出しにまだ海水が入ったプラスチックの棚があったり、泥が固まった足下にガラスが割れたままであったりと、津波の恐ろしさを痛感することもあった。



漁業が盛んな石巻市には、1泊2日で行きました。45世帯あったうちの山側にある4世帯以外が津波によって全壊してしまったという小さな集落の1世帯に伺い、部屋の清掃や襖の張り替えを行った。作業をするなかで、家の方から震災当時の話を聞かせていただいたりもした。2日目には、独居の高齢女性の家に伺って畳の張り替えや、使えなくなった家具をゴミ捨て場まで捨てていく作業をした。避難所からやっと戻ってこれたときには、高価なものは盗まれてしまっていたそうだ。「なにもなくなっちゃったのよ」と何度も繰り返し言う姿をみて、街が復興されていき、ニュースで報道されなくなっても、それは本当の意味で復興とよべないのではないかと感じた。余震はまだ続くなかで、安心して笑顔になれるにはまだまだ支援の手が必要であると感じた。

被災地支援に行かせていただき、ありがとうございました。わたし自身もまた行って心と体を精一杯動かしてきました。

愛隣デイサービスセンター(京都市伏見区)
馬嶋 亮太

●宮城県宮城郡七郷村

東北教区被災者支援センターエマオでのボランティア活動報告【11月14日～25日】

まず始めに、この様なチャンスを受けた事、そしてたくさんの方々のご支援、ご協力頂いたことを心より感謝いたします。

今回、東日本大地震に伴い東北教区被災者センター(エマオ)にお世話になり支援のお手伝いをさせて頂きました。エマオでの活動方針は、効率より丁寧に、被災者の気持ちに寄り添い、言葉に耳を傾けるというものでした。そして、僕は2週間1軒のお宅でお手伝いをさせて頂きました。内容は、庭の塩害で枯れてしまった植木の片付け、倒れてしまった木や塀を直す。そして津波で浸かってしまった部屋の片付け、畑の収穫作業などでした。中でも印象に残っているのは、畑の収穫作業でした。七郷では、見渡すと畑や田んぼは、まだショベルカーなどで泥掻きをしていてまだ農作物の姿はほとんどありませんでしたが、僕の行ったお宅では、畑の瓦礫や泥を手作業で行った為、作物が育っていると言うことでした。そこのお宅の方は、野菜が作れる喜び、自分で作った物を食べる喜び、事あるごとに今までのボランティアさんに感謝しているということでした。お宅での作業の際も被災のお話だけでなくその方の考え方や意見を伺いました。

エマオで教えて頂いた「気持ちに寄り添い、言葉に耳を傾ける」の事を考えながら聞くと、自分と違う考えも素直に受け入れることが出来たと思えました。今回、被災者の方ボランティアセンターのスタッフの方、ボランティアの方、その他たくさんの方々とお会いお話を伺い、色々な経験をしながら自分が行く前に思っていた、「助けたい。」という事が上から目線だったんだと恥ずかしく思いました。被災者の方々の気持ちの強さや、やさしさ、気遣いの中からたくさんを学ばせて頂きました。それに比べて、まだまだ未熟で力のない自分に気づきました。そしてこの事は保育園でも同じで、子ども達からもたくさんを教えてもらっているんだと考えさせられました。そしてもう一つ教えて頂いた事は、「僕は何も出来なかった。」に対して「今までのたくさんのボランティアがいて今日まで続いている。誰か一人でもいなくなったらそこで終わってしまう。」といわれた事です。僕には、まだまだ力がない。しかしたくさんの人と協力することで出来る事がある事。そして僕が経験した事、感じた事を伝え次につなげて行く事の大切さ。僕は、これから少しずつでも自分に力をつけ、与えてもらうだけでなく、共に成長出来る度量と器の人間になれるよう努力していきたい。

宇山光の子保育園(大阪府枚方市)
荒木 健

●宮古支援製品販売報告①

以前の報告にも載せましたが、私たちは岩手県宮古市（ここにはYMCAが行っている宮古ボランティアセンターがあります）を訪問し、ボランティアセンターになっている宮古教会の教会員の方からの情報をもとに、現地の障がい者施設が組織する「いきいきフェア実行委員会」の責任者と出会うことができ、宮古市の障がい者施設でつくる製品を神戸で販売協力をするということで合意ができました。いくつかの施設を訪問し、施設長と話をさせていただき、販売経路が絶たれたり、売り上げが落ち込んだりしている現状をお聞きし、少しでも販売促進に協力できたらと考えました。現地の窓口を「いきいきフェア実行委員会」、神戸の窓口を賀川記念館とし、やり取りをシンプルにして、事務的な作業や費用を簡素化し、賀川記念館の商品を持ち出してもらってYMCAや他団体のバザーや催し等でも販売していくことを計画し、実行しています。下記一覧がこの秋に行われました各施設、YMCAでのバザーの売上です。現地の障がい者施設でつくる実行委員会、YMCA、そしてイエス団が協働して、息の長い現地とのつながりを持っていきたい。小さな取り組みですが、顔の見える関係を保ちつつ、支援を継続していきたいと思います。ご報告まで。

賀川記念館（神戸市中央区）
馬場一郎

●宮古支援製品販売報告②

11月3日（祝）甲子園二葉教会と甲子園二葉幼稚園共催の第4回二葉フェスティバルが開催されました。今年は「東日本大震災で被災された方々を支援するために私たちでできることを！」をモットーに行いました。

宮古製品の販売、人形劇収益は全額寄付、年長児の店の売り上げとキャンディレイの売り上げも全額寄付、募金箱の設置等大人も子どももそれぞれに奮闘しました。

終了間近になると年長児や教会学校の子どもたちが宮古製品を売り歩く姿も見られました。お蔭様で預かった商品はほとんど売り切ることができました。

被災された方々への子どもたちの想いも感じる事ができた一日。子どもパワーに感謝です。



甲子園二葉幼稚園（兵庫県西宮市）
田村三佳子

バザー等での宮古支援製品販売協力一覧

日付	主催	催し名	場所	販売やお世話いただいた方	売上
10月10日(祝)	障がい者支援非営利団体 西宮ふれあいネットワーク	第4回ふれあいネットワーク フェスティバル	西宮市役所前公園	西宮ワイズ石井ウイメンとワイズの皆様、賀川記念館職員	¥26,170
10月16日(日)	西宮 YMCA	西宮 YMCA カーニバル	西宮 YMCA	西宮ワイズの皆様	¥29,850
10月16日(日)	西神戸 YMCA	ワイワイまつり	学園都市 YMCA	西神戸 YMCA 阪本さん、 西神戸 YMCA リーダーOBの皆様	¥17,260
11月3日(祝)	甲子園二葉幼稚園	甲子園二葉幼稚園 バザー	甲子園二葉幼稚園	甲子園二葉幼稚園職員	¥51,010
11月3日(祝)	一麦保育園	一麦保育園バザー	一麦保育園	一麦保育園職員	¥40,000
11月3日(祝)	日本基督教団 須磨教会	須磨教会バザー	日本基督教団 須磨教会	日本基督教団 須磨教会員の皆様	¥49,320
11月6日(日)	賀川記念館	賀川記念館フェスティバル	賀川記念館	賀川記念館職員と 神戸イエス団教会の皆様	¥42,650
11月27日(日)	日本基督教団 神戸雲内教会	神戸雲内教会バザー	日本基督教団 神戸雲内教会	日本基督教団 神戸雲内教会員の皆様	¥16,860
合 計					¥273,120

販売のご協力や製品をご購入いただきました皆様にあらためて感謝申し上げます。

また、これからも息の長い支援を継続してまいりますので、今後よろしく願い申し上げます。

※上記一覧には賀川記念館常設の宮古ショップの売り上げは含まれておりせん。



～ 募 金 状 況 ～

「イエス団震災救援対策本部」ではイエス団関係各所に対し、被災された方々への救援のための活動資金や義援金のため1千万円を目標金額とし募金活動を行っております。現在までに集まりました募金状況をお知らせいたします。これまでに集まった募金 **103口 ¥6,510,747-**

(12月22日現在)

目標の1,000万円まで、**¥3,489,253-**

〈以下に募金いただきました方々に感謝の意をもって掲載させていただきます。(10月12日～12月22日現在)〉

くずは光の子保育園、くずは光の子保育園保護者会、賀川記念館天国屋カフェ、祐村 明、真下 謙

【順不同、敬称略】

※記載に関しては、万全を期しておりますが万が一記載漏れがございましたら上記までご連絡ください。

ご支援をいただき感謝申し上げます。目標金額まで募金活動を行っていきたく思いますので、引き続きご協力をお願い申し上げます。

【募金振込先】

・郵便（ゆうちょ銀行）振替口座 口座番号：01140-8-75472 加入者名：社会福祉法人イエス団

*郵便振替の場合は通信欄に、「東日本大震災救援募金」と明記してください。

・三井住友銀行 三宮支店 普通預金：9206516 口座名：社会福祉法人イエス団

～ イエス団 の 理 念 ～

ミッションステートメント2009

わたしたちイエス団の実践は、1909年12月24日の賀川豊彦の献身に始まる。

そして、イエスの愛に倣い、互いに仕えあい、社会悪と闘い、新しい社会を目指して多くの協働者とともに今日まで歩み続けてきた。この歴史を検証し、働きを引き継ぎ、今、わたしたちはイエスに倣って生きる。

わたしたちは、いのちが大切にされる社会をつくりだす

わたしたちは、隣り人と共に生きる社会をつくりだす

わたしたちは、違いを認め合える社会をつくりだす

わたしたちは、自然が大切にされる社会をつくりだす

わたしたちは、平和をつくりだす

2009年12月24日

社会福祉法人イエス団

学 校 法 人イエス団

『まけるもんか岩手！マグカップ』 絶賛販売中！

～ イエス団救援対策本部 支援活動 ～



東日本大震災支援

あなたのエールを岩手に！

1個 500円！『まけるもんか岩手！マグカップ』の購入を通じて岩手へエールを送りませんか。

イエス団東日本大震災救援対策本部では、支援活動の一環として、「まけるもんか岩手！のマグカップ」の販売協力をさせていただいております。一人でも多くの方々にご購入いただき、岩手の方々へエールを送りたいと思います。是非ご購入ください。また、このマグカップの売り上げは「東日本大震災関西障害者応援連絡会」を通じ、岩手県内の障害者福祉事業所の利用者及び地域生活者の生活・余暇支援活動に必要な物品の提供。とくに被災の大きかったグループホーム等生活者への支援等に活用させていただきます。



【名称】 東日本大震災支援「まけるもんか岩手！マグカップ」
【企画制作】 東日本大震災関西障害者応援連絡会
【デザイン】 岩手県社会福祉協議会障がい者就労支援振興センター
デザインアドバイザー 山崎文子
【製造元】 山大大野商店（岐阜県土岐市）
【販売元】 岩手県知的障害者福祉協会・岩手県社協障がい者福祉協議会（合同支援プロジェクト）
東日本大震災関西障害者応援連絡会・他協力団体
【東日本大震災関西障害者応援連絡会参画団体】
ひまわりの家（奈良県磯城郡）、ちいろば（奈良県生駒郡）、どうで（奈良県山辺郡）、
アクティブセンターうだ（奈良県宇陀市）、もちつもたれつ（奈良県大和高田市）、
マーブル（奈良市）、わたほうしの会（奈良市）、クリエイティブハウスバンジー（東大阪市）、
ベテスタの家（京都市伏見区）、イエス団 愛隣館（京都市伏見区）、
相楽福祉会（京都府相楽郡）、西陣会（京都市上京区）

【ご購入に関するお問い合わせは】

愛隣デイサービスセンター：TEL：075-621-3849 または、イエス団各施設まで